

農業の新しい技術

No. 568 (平成18年1月)

分類コード 02-04

熊本県農林水産部

早期水稲後における 露地スナップエンドウの栽培技術

農業研究センター 天草研究所
担当者：橋本 直樹 石原 稔郎

研究のねらい

早期水稲後、ほ場の高度利用の観点から、早期水稲と組み合わせ可能な新規野菜品目として露地スナップエンドウの栽培を確立する。

研究の成果

1. 早期水稲後作としての露地スナップエンドウは9月上旬播種で11月上旬から降霜時期まで収穫でき、ハウス長期栽培の出荷量が少ない年内に低コストで100～150kg/a生産可能である。(図1)
2. 施肥量は窒素成分量で1.0kg/a以下ならば次年度早期水稲の生育に影響はみられない。(表1)
3. 耐寒性はハウス栽培のものより優れるが、霜サヤの発生は-2℃付近と予想される。(表2)
4. 収穫終了時の草丈が140cm前後であり、畦幅については120cmで受光体勢上十分である。(図2)。

普及上の留意点

1. 露地で秋からの収穫のため、秋口の害虫対策は重要である。
特にヤガ類やサヤに白ぶくれ症状を示すヒラズハナアザミウマの防除は重要である。
2. 生育初期は後半の草勢維持のため摘花を徹底し(7段目まで)、草勢づくりに重点を置く。
3. 地温抑制と除草のため白黒マルチを使用する。
4. 生産経費は初年度で資材代、肥料代、種子代として28,000円/a(農薬代等は除く)程度となる。(表3)

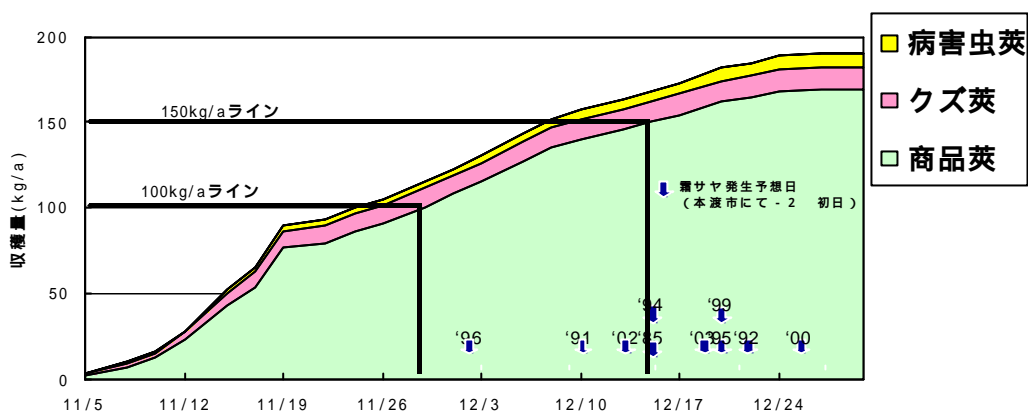


図1 スナップエンドウ収穫量と霜サヤ発生

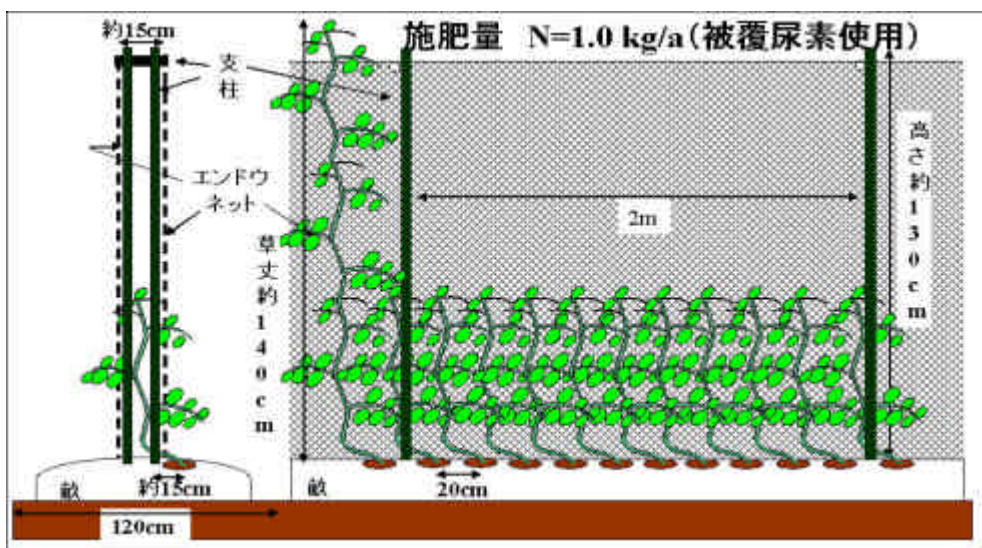


図2 栽植様式

表1 施肥量と次年度水稲作の影響

施肥量	スナップエンドウ		次年度水稲	
	収量	精玄米重	精玄米重	倒伏程度
	kg/10a	kg/10a	kg/10a	0 ~ 5
窒素2.0kg/a	142	66.0	66.0	2
窒素1.0kg/a	140	61.5	61.5	0
窒素0.5kg/a	139	57.8	57.8	0

表2 霜サヤ発生と最低気温の関係

霜サヤ初発生 (予想)日		
日付	気温 (圃場実測値)	発生割合
年/月/日		%
03/12/20	-3	100%
05/1/2	-1.85	1%以下
05/1/9	-1.92	10%

(霜サヤ発生 - 2 付近と予想)

表3 生産経費

	金額	使用年数	年経費
支柱	21,000	3	7,000
エンドウネット	1,700	1	1,700
白黒マルチ	2,600	1	2,600
肥料代	1,400	1	1,400
種子代	2,000	1	2,000
合計	28,700		14,700